

” 原子の宇宙，宇宙の中の原子”

ファインマン「困ります，ファインマンさん」
(岩波書店，1987年，pp.305-308)

波がうちよせてくる
膨大な数の分子が
互いに何億万と離れて
勝手に存在しているというのに
それが一斉に白く泡立つ波をつくる

それを眺める眼すら
存在しなかった遥かな昔から
何億もの年を重ね
今も変わりなく
波濤は岸を打ちつづける

ひとかえらの生命もない
死んだ惑星の上で
誰のため 何のため
波は打ち寄せてくるのか？

ひとときも憩わず
エネルギーにさいなまれ
太陽に滅ぼし尽くされ
宇宙に放たれる
そのたったひとかけらが
海をとどろかす

海底深く
分子はすべて互いのパターンを繰り返す
新しく複雑なものが生まれるまで

こうして生まれたものはまた
自らとそっくり同じものを

作っていく
そしてまた新しい踊りがはじまるのだ

その大きさ複雑さを増しながら
生命あるもの すなわち
原子のかたまり
DNA タンパク質は
たぐいなく
複雑微妙なパターンを踊り続ける

ゆりかごを離れ
こうして今 乾いた土地に佇む私は
意識ある原子
好奇の眼をもった物質だ

思惟することの驚異に打たれ
私は海辺に立ちつくす
その私は
原子の宇宙
宇宙の中の原子